

## 文学館の可能性とこれから

館長 今川英子

当文学館は、二〇〇六年十一月開館以来、八年目を迎えております。

常設展示の他、春と秋に特別企画展、夏には子供向けの展覧会や、それらにちなんだ講演会、イベント等を開催してまいりました。

毎年の入館者数は一万人前後で、開館以来横ばいの数字です。そもそも「美術館や博物館は分かるけれど、文学館は何をしているところ？」という疑問を持たれる方も多いよう

で、なかなか来館者増には結びつきません。確かに文学は、まず「読むもの」ですから、文学資料や作家の愛用品などの展示によってどう見せるか、その「見せ方」には最も腐心するところです。

文学館の歴史は新しく、文学者の資料を収集・保管し、調査・研究をする本格的な施設の最初は、一九六二年に準備会ができ、六七年に開設した東京駒場の日本近代文学館です。

川端康成ら作家や研究者が中心となって、日本の固有性を示す文化資源としての「文学」を保存する重要性を訴えて設立されました。背景には文学全集ブームなどの「文学」の大衆化があり、人々の「文学」に対する信頼が高かったということもあります。

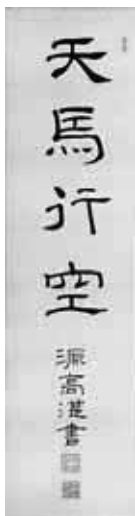
その後の高度成長期には、地方でも地元ゆかりの文学者の顕彰を目的に文学館が次々に開設され、現在ではネット文学館や無人の記念室等も含めると全国に七百近くもあると言

われています。

地方の文学館は当館も含めて、地元ゆかりの文学者の資料収集・保存、調査・研究によって地域固有の歴史、風土、文化を再発見し、それに連なる地域文化の向上と活性化に寄与し、街の格と誇りを醸成する役割を担ってきました。しかし、景気の悪化で運営環境が厳しさを増している現在、改めて文学館の可能性が問われています。

ところで昨今は、読書時間ゼロの大学生が四割という時代、たとえ読んでいても、話題になつているとか、ツールとしてというような情報先行型の読書で、内面的な希求が契機となつている場合は多くはなさそうです。それがいけないというわけではありませんが、やはり超越的な価値観や人間、社会への深い思索に至るような読書もほしいものです。今や、「文学」そのものも問われています。

文学館に何ができるか。このたび結成された「友の会」の皆さんにも積極的に館の運営に加わっていただいて、文学館の新しいあり方を考えていきたいと思います。



森鷗外（一八六二—一九三三）書

「源高湛」は鷗外の姓と諱

## 目次

○ 文学館のこれから	1	○ ロビー展（櫛山荘子ども俳句大会作品、川柳色紙・短冊展）	
○ 第15回特別企画展 恋と革命に生きた女たち	2	○ ホームページリニューアル	
○ 開会記念講話（竹内紀子さん：徳島県立文学書道館学芸員）	3	○ 第4回「あなたにایتたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式	6
○ 文学講座 今川英子（館長）		○ 宗左近記念室オープン	7
○ 矢野寛治さん講演会「伊藤野枝の影と光」		○ 宗左近記念碑除幕式	
○ 本の力展 東日本大震災3.11以降の全出版記録	4	○ 文学館文庫第8集『宗左近』刊行	
○ 平成25年度前期 文学館セミナー		○ 平成26年度前期企画展開催予定	8
○ 書くコース、創るコース、読むコース		○ 北九州のディテール展	
○ 北九州市立文学館友の会発足	5	○ モンゴメリと花子の赤毛のアン展	
○ 林芙美子資料目録刊行		○ キヨノサチコ絵本原画の世界 みんな大好き！ノントン展	
○ 北九州市七区文化祭俳句大会入選作品展		○ 資料寄贈者・提供者、受贈雑誌一覧	

# 恋と革命に 生きた女たち

2013年11月2日(土) ~ 12月15日(日)



平成25年秋の特別企画展は、「恋と革命に生きた女たち」を開催しました。恋、思想、芸術に生を燃焼させた女性たちの姿を、作家・瀬戸内寂聴の伝記小説からよみがえらせました。

## 対象人物と作品

田村俊子（たむら としこ）  
一八八四〜一九四五 小説家、日本の女性の職業作家。

岡本かの子（おかもとかのこ）  
一八八九〜一九三九 歌人、宗教家、小説家。一つ屋根の下、夫と二人の恋人と暮らす生活ぶりが驚かれる。

高岡智照尼（たかおかちしょうに）  
一八九六〜一九九四 祇王寺の元庵主。恋人に身の潔白を証明するため、小指を切り落とす。転変の末、出家。

伊藤野枝（いとうのえ）  
一八九五〜一九三三 女性運動家。「青鞥」の編集を平塚らいてうから引き継ぐ。アナキストの大山杉と、関東大震災後の混乱の中虐殺される。

管野須賀子（かんのすがこ）  
一八八一〜一九二一 社会主義者。日本史上唯一、女性革命家として死刑を受ける。

金子文子（かねこ ふみこ）  
一九〇三〜一九二六 社会運動家。朴烈事件で大逆罪に問われる。のち自死。

平塚らいてう（ひらつからいちよう）  
一八八六〜一九七一 女性運動家。雑誌「青鞥」を創刊。「元始女性は大陽であった」のフレーズで知られる。

湯浅芳子（ゆあさ よしこ）  
一八九六〜一九九〇 ロシア文学者。作家中條（のち宮本）百合子と同性愛を交わす。

三浦環（みづら たまき）  
一八八四〜一九四六 オペラ歌手。「蝶々夫人」で世界的な名声を得る。

お蝶夫人  
管野須賀子（かんのすがこ）  
一八八一〜一九二一 社会主義者。日本史上唯一、女性革命家として死刑を受ける。

『遠い声』  
金子文子（かねこ ふみこ）  
一九〇三〜一九二六 社会運動家。朴烈事件で大逆罪に問われる。のち自死。

『余白の春』  
平塚らいてう（ひらつからいちよう）  
一八八六〜一九七一 女性運動家。雑誌「青鞥」を創刊。「元始女性は大陽であった」のフレーズで知られる。

『青鞥』  
湯浅芳子（ゆあさ よしこ）  
一八九六〜一九九〇 ロシア文学者。作家中條（のち宮本）百合子と同性愛を交わす。

『孤高の人』  
瀬戸内寂聴（せとうちやくちよう）  
一九三三 小説家、僧侶。はじめ瀬戸内晴美として活動するが51歳で出家。法名寂聴。

『比叡』  
美は乱調にあり  
諧調は偽りなり

特に、福岡県出身の伊藤野枝

については詳しく紹介し、オリジナルのリーフレット（「伊藤野枝と福岡」）も作成しました。

また、地元の映画館、小倉昭和館で協賛上映「恋と革命に生きた女たち2本立て」を行っていただきました。瀬戸内寂聴原作「夏の終り」（満島ひかり、綾野剛出演）と「アンナ・カレーニナ」（キーラ・ナイトレイ出演）の同時上映です。

「新しい女」たちの足あとをたどることで、今日の男女共同参画社会を再考する企画展となりました。

展示資料点数 約2500点  
企画協力 徳島県立文学書道館

展示資料点数 約2500点  
企画協力 徳島県立文学書道館



特別企画展

### 開会記念講話

講師「竹内紀子さん（徳島県立文学書道館学芸員）」

平成25年11月2日

竹内さんの勤める徳島県立文学書道館の館長は瀬戸内寂聴さんです（平成26年度より名誉館長）。竹内さんは瀬戸内館長の信頼厚く、本展の企画をはじめ、作家・瀬戸内寂聴に関する企画展や年譜研究を担当しています。



竹内紀子さん

### 文学講座（全2回）

講師「今川英子（北九州市立文学館館長）」

名前は知っているけど、実際

はどんな人だったのか…。今回の講座は、延べ1000人を超す方が受講され、大盛況でした。平塚らいてうと「青鞥」

11月9日

元始女性は太陽であった。おなじみのフレーズを唱えたのは、当時まだ二十代半ばの女性・平塚らいてうでした。与謝

野晶子、長沼（高村）智恵子など、日本初の女性文芸誌「青鞥」に集った「新しい女」たちを群像で解説しました。岡本かの子

11月30日

芸術家・岡本太郎の母、かの子は、童女のような天真爛漫さを持つ、不思議な女性です。かの子に魅せられた男たちとの不思議な生活、小説家としての奇跡の晩年などを講義しました。



今川館長

### 矢野寛治さん講演会「伊藤野枝の影と光」



矢野寛治さん

平成25年11月23日

伊藤野枝とは縁戚関係にあり、『伊藤野枝と代準介』の著書がある矢野寛治さんにご講演いただきました。

矢野さんの奥様は、伊藤野枝を育英した叔父・代準介の曾孫にあたります。ご実家には、代々の自叙伝『牟田乃落穂』が伝えられており、『伊藤野枝と代準介』はこれを読み解く形で執筆

されました。これまで、あまり知られていなかった伊藤野枝の人生が詳しく検証されるほか、野枝自身が書いた小説の影響で誤解されていた代準介の真実も明らかにされています。

今宿（現福岡市西区）の貧しい家に生まれ、口減らしに他家へ預けられた野枝は、持ち前の負けん気で人生に立ち向かいます。はじめは代の娘で、自らに



とっては従姉にあたる千代子をライバルとし、上野高等女学校では裕福な同級生、さらに「青鞥」では、当時最高の教育を受けた女性たちに挑んでいきました。矢野さんは、野枝のこうした姿勢を、持って生まれた宿命に「生きた証」を刻んだと評します。そんな野枝が、大杉栄との出会いを通して、宿命の影から、意志と努力で勝ち得た光の世界へ踏み出していくことを説かれました。

伊藤野枝と言えば、葉山日蔭茶屋事件などのスキャンダルで記憶されがちですが、矢野さんは野枝が「女工」「女中」「娼妓」といった底辺女性の地位向上に努めたことを挙げ、真の女性解放運動として再評価を促し

ています。

また、講演ではご自身が監修するテレビ番組収録のため、実現した瀬戸内寂聴さんとの対談の様子なども紹介いただきました。

野枝のような「真実一路」の人生か、はたまた世間と調和する「良妻賢母」の生き方か。今日も決して古びない問いです。

アンケート

・強く生きた女性に尊敬の念が湧きます。皆、一生懸命に勉強し、教養あふれる人だったのだと思いました。

（70代・男性）

・かねてから名前は知っていたし本なども読んだことはあるが、すさまじい人生に圧倒されました。

（70代・女性）

・女性の自立とは、自分の人生を生きては？恋愛は自立していなければ生まれえない、など感じました。

（60代・女性）

・ゆつくり企画展を見学して、文学の世界に浸りました。文学館の存在に心から感謝しています。

（40代・女性）

・作品を読んでみたくなくなった。昔の女性たちの強さがすばらしい。

（30代・女性）

# 本の力展

東日本大震災  
3・11以降の全出版記録

平成26年3月11日～3月30日  
東日本大震災以降に出版された震災に関連する書籍を集め、読んでいただく場を提供する展覧会を開催しました。大震災の記憶の風化を防ぎ、復興支援につながることを願う巡回展（企画・キハラ株式会社）です。全国文学館協議会共同企画「3・11文学館からのメッセージ 天災地変と文学」展の一環としての開催となりました。

370社を超える出版社から無償提供された書籍は、およそ1400冊。大手出版社発行の書籍をはじめ、日頃手に取る機会の少ない専門書や、被災地の自治体発行の写真集なども集まりました。

また、本展では特に、震災後の文学者の言葉に注目し作品を紹介しました。多くの作家たちは、大震災という圧倒的な出来事を言葉にするには、時間が必要なのではないかというためらいのなかにありました。それでも、「文学」にしかできない表現があるはずだと信じ作品

を生み出してきました。

震災直後に出版された和合亮一『詩の礎』、川上弘美『神様2011』をはじめ、村田喜代子、高橋睦郎、黒田征太郎など郷土作家の作品、いとうせいこう『想像ラジオ』、津島佑子『ヤマネコ・ドーム』など話題となった作品もピックアップしました。

その他、北九州市危機管理室の協力で、震災直後の被災地の写真や、北九州市による被災地支援の様子を紹介しました。



アンケート  
私の知っている震災はTVで見た映像だけだったので、少しでも知りたくて訪れた。「本の力」はやはりすごいと思った。  
(30代女性)  
震災後、こんなにたくさん本が出版されていたことを初めて知った。忘れてはいけな  
いと改めて実感した。  
(40代男性)

## 平成25年度後期 文学館セミナー

昨年度から始まった文学館セミナーの後期を開講しました。書く 創る 読む の3コース、平成25年10月から平成26年3月まで、月1回全6回のクラスです。多くの方に参加いただき、計57名が後期コースを修了されました。

書くコース（第一水曜日）

講師 後藤みな子さん（作家）  
内容 受講者が自由なテーマでエッセイや自分史などを書き、クラスで発表。先生が一人ひとりに丁寧アドバイスをしました。

参加者の声

丁寧な細かな指導をいただき、とても勉強になった。また、他の方の書いた文章や考えもおもしろく、参考になった。  
(70代男性)



後藤みな子さん

創るコース（第一水曜日）  
講師 岸原清行さん（福岡県俳句協会会長、『青嶺』主宰）  
内容 俳句の基礎を、俳人たちの句の紹介とあわせ学びました。また、毎回与えられた季節で実作し先生に講評いただきました。

参加者の声

俳句の基礎を教えていただき、実作もできたので楽しかった。ぜひ続けていきたい。  
(40代女性)



岸原清行さん

読むコース（第二金曜日）

講師 渡瀬淳子さん（北九州市立大学准教授）  
内容 『平家物語』の名場面を、原文・口語訳をあわせて読み解きました。武士や貴族の価値観や生き方、風俗、宗教など当時の時代背景もまじえながら、お話しいただきました。

参加者の声

原文で読むことで、『平家物語』の名文を堪能することが

できた。先生の声や話し方も分かりやすかった。（50代女性）



渡瀬淳子さん

文学館セミナーは今年度前期（4月～9月）も、書く 創る 読む に新たに話すを加え、全4コースで開講しています。

新コース紹介

話すコース（第三金曜日）  
講師 江崎裕子さん（フリーアナウンサー）  
内容 「好印象な自己紹介挨拶・会話のために」と題し、伝わりやすく話すための言葉、発声、朗読などを学びます。

定員に空きがある場合、途中からの参加が可能です。興味のある方は文学館までお問い合わせください。

なお、書くのコースは途中参加の申し込みを受け付けていません。

# 北九州市立文学館友の会が発足

第1回総会・役員会を開催 12月21日(土)

北九州市立文学館友の会は、文学や北九州市立文学館に関心を持つ方々が集まり、文学・文芸に関する知識教養、理解を深めるとともに、文学館の活動を支援することを目的として設立されました。

平成25年度当初より会員の募集を行い、3月31日現在で、143名の皆様が入会されています。

12月21日(土)には、文学館交流ステージにおいて、第1回総会と役員会が開かれ、30名の会員の皆様による審議の結果、下記の皆さんが役員に選任されるとともに規約が承認され、今年度からの事業の本格実施に向けた体制が整いました。

北九州市立文学館友の会役員

会長 後藤みな子  
副会長 加賀美清之  
理事

天川悦子、井生定巳  
伊藤和人、柿本和夫  
岸原清行、河野正彦  
近藤晋平、樋口智巳

古谷龍太郎、古吉昭子

三村保子、山下敏克

監事

石川一步、西村韶道

(敬称略五十音順)

河野正彦理事は1月17日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

文学館としても、友の会の皆様と手を携えながら、北九州の文芸の振興に取り組んでまいりますので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、北九州市立文学館友の会では、平成26年度新規入会と、継続加入のご案内をいたします。

会員の皆様には、

- ・年間パスポート進呈
- ・特別企画展招待券1枚進呈
- ・特別企画展図録進呈
- などの特典があります。

詳細は文学館内事務局までお尋ね下さい。

## 「林芙美子資料目録」

平成26年3月、新宿歴史博物館発行

昨年度開催した協働企画展

「生誕110年林芙美子展 風も吹くなり 雲も光るなり」の成果物として刊行。新宿歴史博物館、北九州市立文学館、尾道市、かごしま近代文学館の各者が編集を行い、関連資料およそ5000点を掲載しました。

当館の主要資料は、「原稿・草稿」、「手帳・メモ帳」、「書簡」、「絵画・美術品」、「遺愛品」、「書籍・雑誌」。特に、書簡類はおよそ600点所蔵しています。



本資料は販売は致しておりません。閲覧ご希望の場合は、事前に文学館にお問い合わせいただくか、文学館ホームページ内の「ご利用案内」から「収蔵資料の特別利用」の項目をご覧ください。

## 北九州市七区文化祭

俳句大会入選作品展

12月21日～1月19日

平成25年秋に市内各区で開催された文化祭俳句大会の入選作品を本市七区の俳句協会が協力して文学館で展示する初の試みでした。

この展示設備では、俳句協会の方々が、自ら配置を決め、壁に向き合って一枚一枚丁寧に貼っていきましました。中央のセンターケースには選者の方々の自信作を展示し見ごたえのある作品展になりました。



## ロビー展

檜山荘子ども俳句大会

10月11日～1月22日

第9回檜山荘子ども俳句大会大賞を受賞した呉藤樹さんの「打った球入道雲を突き抜け

る」をはじめ、特別賞11点、秀作36点の短冊や佳作86点を展示しました。

川柳色紙・短冊展

1月23日～3月2日

第7回 北九州文学協会

文学賞 川柳部門

第4回 北九州芸術祭

ジュニア部門 川柳誌上大会

2つのコンクールで優秀な成績を収めた作品100点を色紙と短冊にしたため展示しました。若さあふれる作品とベテランの味の違いが楽しめる展示になりました。

## 文学館ホームページリニューアル

平成26年度より、北九州市立文学館のホームページをリニューアルしました。ゆかりの文学者の紹介に力を入れ、より一層の情報発信に努めます。学芸員の日々をお伝えする「学芸員だより」のコーナーも設けました。ぜひアクセスしてみてください。



<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

# 第4回「あなたにaitakute生まれてきた詩」コンクール表彰式

北九州市立文学館では、北九州出身の詩人・宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子供の豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにaitakute生まれてきた詩」コンクールを実施しています。今年で4回目になるコンクールには県内外から小学生の部に344作品、中学生の部には686作品の応募があり、詩人の平出隆先生の最終審査により以下のとおり各受賞者が決定しました。

今年から新たに学校賞を設け、特に成果を挙げた萩原小学校ら3校が受賞しました。

表彰式は、12月14日(土)に文学館において開催され、平出隆先生からは、「常識に縛られることなく爽快でユーモアもある破壊のエネルギーを言葉の上に発揮してくれることを願っています。」のご講評をいただきました。

表彰式後は高山保材さん指揮、北九州小倉少年少女合唱団、北九州少年合唱隊のミニコンサートが行われ、宗左近、みずかみかずよ作詞の合唱曲などが披露されました。



## 小学生の部

### 宗左近賞

わたしのおとつと

大石 寛子 戸畑中央小1年

### みずかみかずよ賞

せっけんつてすこいなふしぎだな

村上 紗奈 田野浦小3年

### 北九州市長賞

バスにのつたよ

亀山 美緒 中尾小1年

### 北九州市教育長賞

やさしさ

角野 晃都 萩原小4年

### 北九州市立文学館長賞

ケケそつめん

近藤 拓光 福岡教育大附属小倉小1年

### 佳作

きれいなこと

黒岩 奈々未 萩原小6年

変身する妹

古賀 夕翔 萩原小6年

お母さんの手

篠田 萌々子 黒畑小3年

はなび

柴崎 廉真 大積小1年

お兄ちゃん 元気ですか

西口 海都 門司中央小6年

けしごまおぼけ、でませんように

西村 りん 牧山小1年

もう一度、抱っこして

藤重 良夢 明治学園小6年

わたしみたいなくわがた虫

万田 菜々望 高見小2年

信念

万田 優希 高見小6年

ぼくのまま

村上 理来 田野浦小1年

学校賞 萩原小学校

## 中学生の部

### 宗左近賞

テープ

松田 あすか 敬愛中2年

### みずかみかずよ賞

音

北島 麻子 大谷中3年

### 北九州市長賞

なみたつてすこい

中村 愛香莉 大蔵中1年

### 北九州市教育長賞

奇跡の切符

麥生田 奈々 福岡教育大附属小倉中2年

### 北九州市立文学館長賞

逃げて自由に生きる

大溝 達也 敬愛中1年

### 佳作

こめんのつぎのありがとう

梅本 浩毅 九州国際大付属中2年

ありがとうという魔法

大庭 早瑛 篠崎中3年

書道

鎌田 聖菜 高中生2年

仮面舞踏会

神原 真 大蔵中3年

ぼくはこぐ、自転車を

鈴木 俊太 九州国際大付属中1年

小さな幸せ

鈴谷 かなえ 柳西中2年

ケシゴム

戸松 颯希 九州国際大付属中2年

二つの小さな命

永井 杏佳 敬愛中1年

秋の気配

野口 菜々美 大谷中2年

影

藤田 和紀 大蔵中2年

学校賞 九州国際大学付属中学校 大蔵中学校





新戸畑図書館内に

# 宗左近記念室が オープンしました

宗左近記念室（戸畑図書館内）〒804-0082 北九州市戸畑区新池1-1-1  
電話：093-871-3464 FAX：093-871-3466

宗左近（一九一九～二〇〇六）



詩人・美術評論家・翻訳家

3月28日、宗左近記念室がオープンしました。同日に開館した戸畑図書館内の一角に設けられたこの部屋は、北九州・戸畑の牧山峠に生まれた詩人・宗左近の文業を顕彰し、市民の皆様にも広く知っていただくための空間です。室内では詩、美術評論、翻訳といった宗の文業と、故郷・北九州への眼差しを紹介しています。

代表作『炎える母』では昭和20年5月25日の空襲で母を喪ったことが描かれていますが、その直後の日誌や、執筆に入った昭和39年頃の日誌、そして北九州に題材を採った、一行詩集『響灘』の自筆原稿を展示しています。その他、宗左近愛用の着物や書なども展示。また、戸畑の有志で結成された「宗左近ファンクラブ」（世話人：自見

榮祐氏）が制作した宗の紹介映像を常時放映し、タブレット型PCで関連資料の一部が閲覧できます。

記念室で宗の詩、言葉に触れ、心のざわめきを感じていただければと思います。



## 宗左近記念碑 除幕式

宗左近記念室開室の同日、「宗左近ファンクラブ」が建立した宗左近文学碑の除幕式が執り行われました。

響灘を一望できる北九州市立美術館本館の前庭に、白木蓮に抱かれるように設けられたオブジェは、宗の中句集『塵気楼』のオマージュとしてアーティスト・中村ミナト氏がデザインされたもので、その傍らには『響灘』収録の一行詩「あの世とこの世 牧山峠 一本道 きみとおれ」が刻まれたプレートが配されています。

宗左近を偲ぶシンボルとして、戸畑の地で未永く愛されることを願います。



## 文学館文庫第8集 『宗左近』 刊行

北九州市立文学館文庫第8集として『宗左近』を3月28日に刊行しました。この文庫には、宗の代表作である詩集『炎える母』（抄）、中句集『響灘』のほか、美術評論「日本美のふるさと」（『伏流水日本美』収録）、自伝的小説「故郷の名」（『新潮』平成15年2月号）を収録し、略年譜を付しました。特に「故郷の名」は第30回川端康成文学賞候補になった作品で、本文庫が初めての単行本収録となります。ぜひ手に取って、宗左近の世界に触れてください。文学館、ブックセンタークエスト小倉本店で販売しています。

（価格1000円・税込）



# 平成26年度前期企画展開催予定

平成26年7月21日(土)  
～8月31日(日)

誕生35周年記念企画  
キヨノサチコ絵本原画の世界  
みんな大好き!



原画やラフスケッチ、作者  
キヨノサチコさんのゆかりの  
品々の展示やアニメーションの放映

イベント

絵本作り、絵本の読み聞かせ、ノンタンとの握手会・写真撮影会などを行います。詳しくは文学館HPか本展チラシをご覧ください。

平成26年6月14日(土)  
～7月13日(日)

モンゴメリと花子の

## 赤毛のアン<sup>TM</sup>展

Anne of green gables 展

～カナダと日本をつないだ運命の一冊～

NHK朝ドラ「花子とアン」で大注目の翻訳家・村岡花子と「赤毛のアン」(L.M.モンゴメリ原作)の世界をたっぷりご紹介します!

九州での開催(ドラマ放映中)は当館のみ!!

イベント

「花子とアン」の原案「アンのゆりかご 村岡花子の生涯」の著者・村岡恵理さんの講演会

7/4(金)13時30分～15時

北九州芸術劇場小劇場

申込要、詳しくは文学館HPか本展チラシをご覧ください。

平成26年4月5日(土)  
～5月25日(日)



北九州市内に点在する近代建築の魅力を伝える展覧会。主催はNPO法人「創を考える会・北九州」。

イベント

ギャラリートーク「ディテールでみる北九州の近代建築」(建築家・古森弘一氏)

詳しくは文学館HPか本展チラシをご覧ください。

藍、アヴァンティ、青嶺、赤とんぼ、馬酔木、あしへい、穴生

受贈雑誌一覧

星野允伸、益本悠規、町田市民文学館ことばらんど、松ヶ江郷土史会、水木ユヤ、宮本一宏、森鷗外記念会、森鷗外記念館、柳生じゅん子、山口淑枝、ライシユ・ヴァリエ、若窪美恵

資料寄贈者・提供者

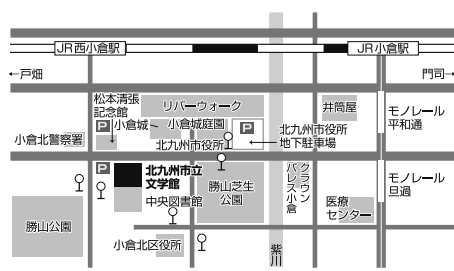
赤星千鶴子、赤松菊夫、秋山夏子、秋吉久紀夫、天野俊行、池田幸利、泉鏡花記念館、市川市文学ミュージアム、伊藤比呂美、今村修、大岡信ことば館、大羽弥生、岡田功、尾形八重子、岡山ステイミュージアム、岡玲子、小田文比児、梶谷忠大、柏木恵美子、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、川崎市岡本太郎美術館、北九州市立美術館、北野元生、隈可須奈、古賀紀代美、さいたま文学館、事業構想大学院大学、下山八洲夫、白根友吉、宗香、末房長明、菅和彦、須永純子、佐久間庸和、高橋秀夫、谷口絹代、坪内稔典、奈尾諒子、永田英子、中西輝磨、西田英樹、日本近代文学館、芳賀晟壽、波佐間義之、林正巳、姫路文学館、福田精一、

文芸、あんのちの籠、色鳥、海、沖、海峽派、九州俳句、九州文學、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、現代短歌、こだま、左岸、沙漠、七曜、自鳴鐘、周炎、人權の文化、船団、川柳あやめ、川柳くらがね、タルタ、天山牧歌、伝書鳩、天籟通信、とびうお、菜殻火、虹野、白桃、八雁、花鶏、ひびき、ペたる、與謝野晶子研究

2014年4月1日発行  
北九州市立文学館  
〒803-0813  
北九州市小倉北区内4-1  
TEL 093-571-1505  
http://www.kitakyushu-city-bungakukan.jp/

■開館時間 9:30～18:00(入館は17:30まで)  
平成26年4月1日から  
平日の閉館時間が変更になりました。

■休館日  
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)  
年末年始



■JR小倉駅より徒歩15分 ■JR西小倉駅より徒歩10分  
■勝山公園バス停より徒歩1分 ■北九州市役所前バス停より徒歩2分  
■小倉北区役所前バス停より徒歩2分  
■北九州都市高速大手町ランプより2分  
■駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい